



古道を訪ねて⑩

西国街道

半町～瀬川地区



桜井駅前を過ぎると、街道の幅は再び狭くなり、白壁や板壁の建物や、茅葺き屋根にトタンを被せた屋根の建物などが道の左右に見られ、往時の街道の面影が感じられるようになります。直線的に延びた街道を西に進んでいくと、街道が石畳風に整備されている場所に到達します。



半町から瀬川にかけてのこの周辺は、江戸時代の宿場跡です。現在、自動車教習所になっている所は、大名や幕府の役人などの限られた身分の者が宿泊・休憩した半町村の本陣跡で、その西側には瀬川村の本陣があります。

した。瀬川は、中世から宿場として栄えていましたが、江戸時代になり、庄屋が領主から本陣を申しつけられ、寛永年間（1624年～1644年）に馬借所が設けられ、商人や旅客の荷物の輸送が行われるようになり、大名の宿泊や休憩も増えてきました。やがて瀬川村だけではまかないきれなくなり、天和年間（1681～1684年）から、半町村も本陣経営に参加するようになり、瀬川・半町の立会駅所として栄えましたが、明治13年に駅所は廃止されました。

街道をさらに西に向かっていると、左右に分かれる分岐点にたどり着きます。



左に向かう道が西国街道で、右に向かい箕面川に架かる「今井橋」を渡って行く道は「有馬街道」です。この周辺は歴史に残る2度の合戦がありました。

元弘3（1333）年の「瀬川の合戦」では、後醍醐天皇の命令を受け、摂津に進出してきた赤松円心が、これを防ごうとした六波羅勢が瀬川の箕面川付近で戦い、赤松勢が六波羅勢を打ち破り、3年後の建武3年の「豊島河原の合戦」では、足利尊氏が新田義貞、北畠顕家と戦い、尊氏は破れて西へ逃れました。今井橋の前で左に曲がり、250m程進み、箕面線の踏切を越えると西国街道は池田市内に入ります。

